H14年11月30日

長者屋敷遺跡発掘調査（17次）　現地説明会資料

調査地点は，伊勢国府政庁跡から約700ｍ北側に位置しています。
今回の土地改良事業に伴う発掘調査によって，奈良時代（今から1,250年前）の竪穴住居，掘立柱建物などが多数検出されました。除々にではありますが，国府跡の周囲の様子が明らかにされつつあり，その点で今回の調査は大きな成果が得られたと考えられます。その成果のいくつかを簡単に説明させていただきます。

掘立柱建物　柱の掘り方が30cm前後と比較的小さな建物跡3棟が発掘区の北東隅部を中心に計画性をもって見つかりました。小さな建物でも，廂（ひさし）を持っており一般農村集落で見られる建物群とは趣きを異にしています。

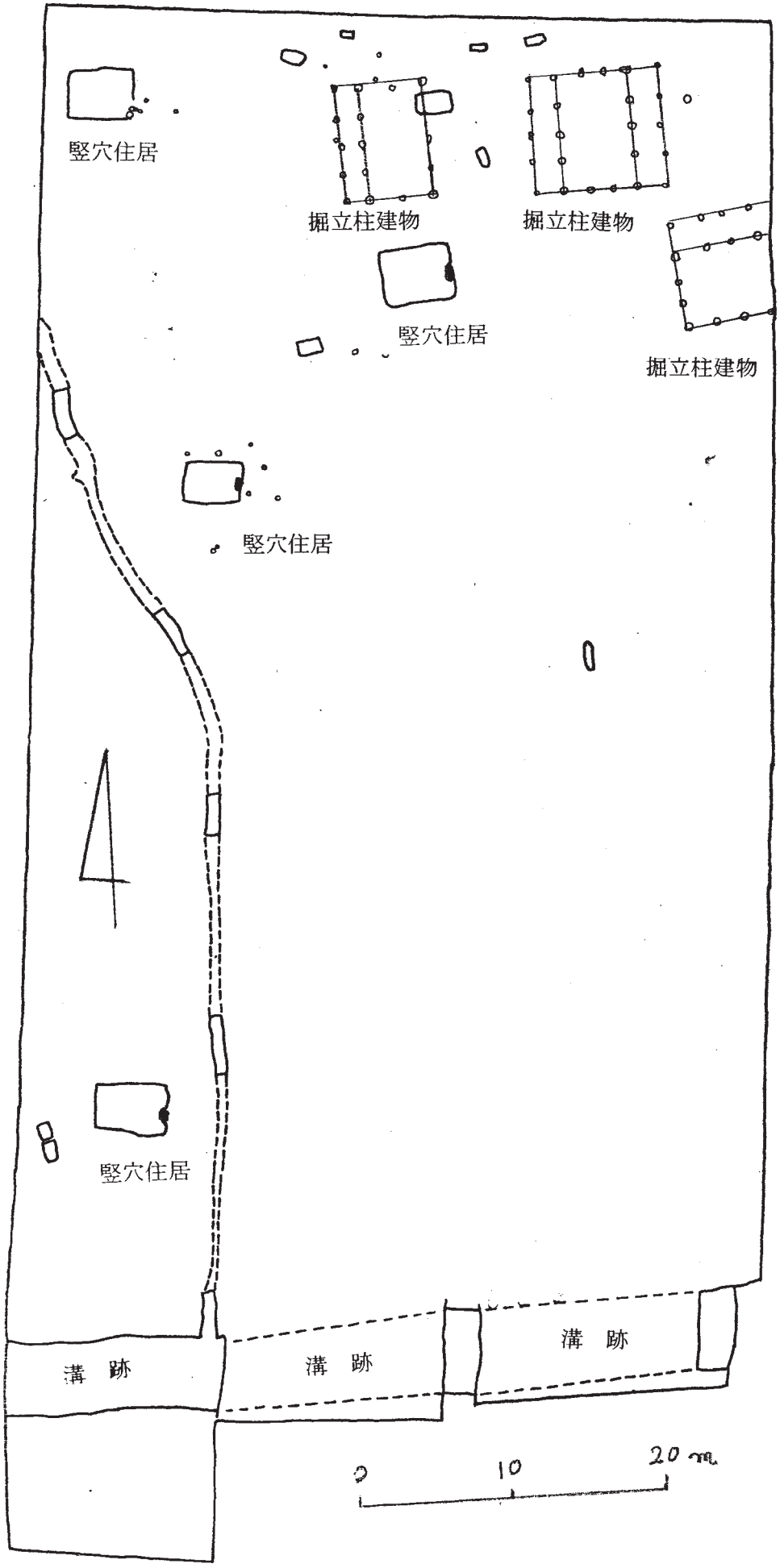
竪穴住居　約4ｍ×3ｍの長方形を呈した住居跡が４棟見つかっています。3棟は東側にカマドが造られ，その袖の部分には瓦が使用されています。その周辺部には小さな穴が掘られ，中から土器片が出土していることから，貯蔵穴と考えられます。

溝　跡　発掘区の南端に東西に延びる幅5ｍ，深さ70cm～120cmの溝があります。溝の底から瓦片が数点出土していることから国府域との境を区画する北側の溝とも考えられます。

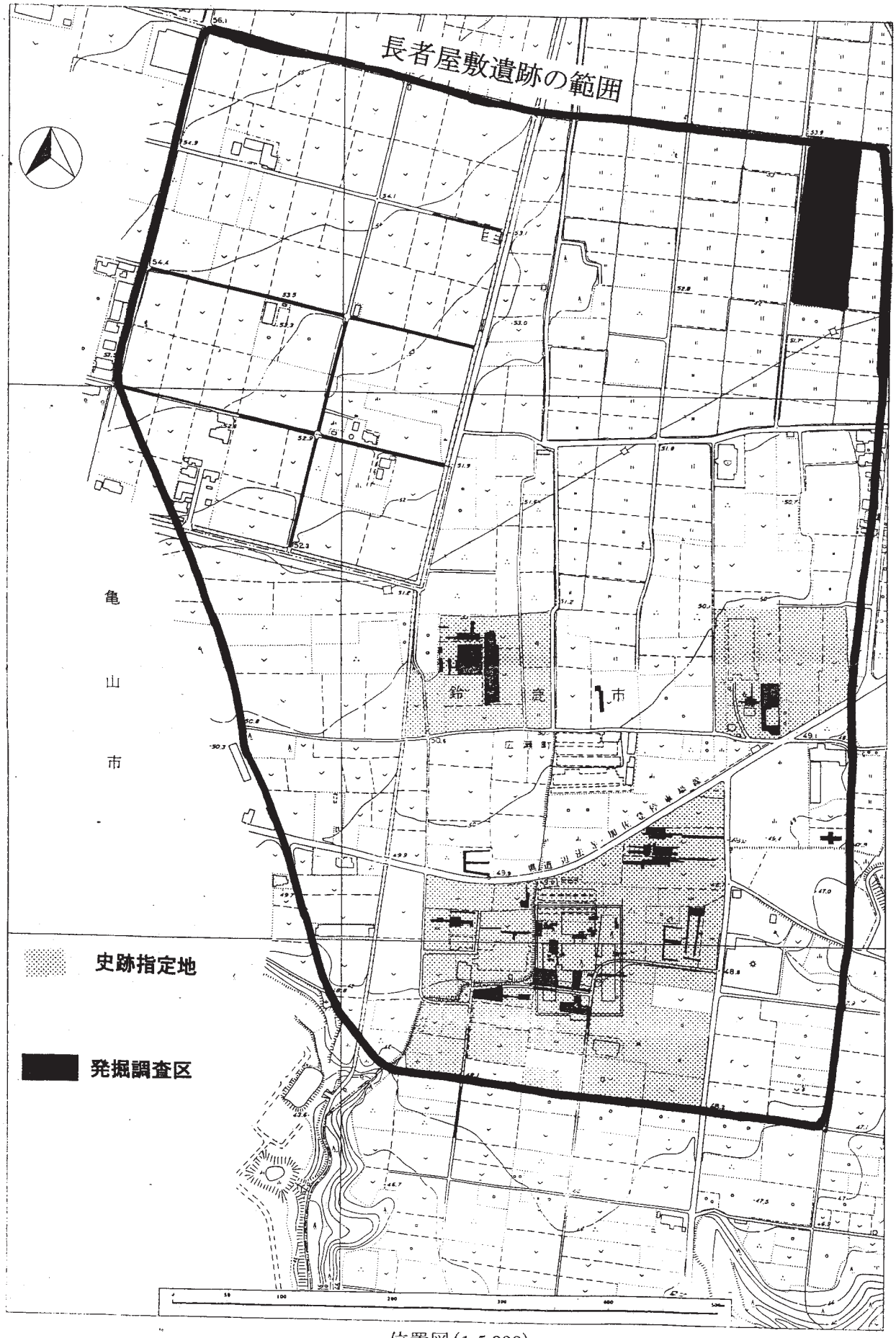
まとめ

1．竪穴住居から国府政庁等で使用されていた瓦片が出土していることから伊勢国府とほぼ同時期の集落跡（８世紀後半）と考えられます。伊勢国府の北側に位置するこれらの建物群が国府跡とどのような関係にあったのか，その性格については今後，出土資料や全国の国府跡の類例を調査していかなければならないと思います。
2．調査地点周辺には，住居跡が広く点在していることが予測されます。今後，土地改良等により発掘の機会が増えるかと思いますが，そうした計画があった場合，事前にご連絡いただきますようご協力を願い致します。

遺構平面図（S＝４００）



伊勢国府跡



位置図(1:5,000)